

第2期下北山村
まち・ひと・しごと創生総合戦略

森と生きる 森に遊ぶ 森で育む
きなりの郷 下北山

令和2年 ▶ 令和6年



令和2年3月

下北山村

第2期下北山村まち・ひと・しごと創生総合戦略

目次

序章	まち・ひと・しごと創生総合戦略.....	1
(1)	国の創生総合戦略及び本村地方創生総合戦略との関係.....	1
(2)	「まち・ひと・しごと創生」政策5原則.....	2
(3)	国の第2期「総合戦略」の施策体系.....	3
(4)	目指すべき将来像.....	4
(5)	地方創生と持続可能な開発目標 SDGs.....	4
(6)	Society 5.0の実現.....	5
(7)	取組体制とPDCAサイクル（計画の検証）.....	6
第2章	人口推計.....	7
(1)	人口推計：パターン1（国立社会保障・人口問題研究所の推計に準じた推計）.....	7
(2)	シミュレーション1（パターン1+出生率上昇.....	8
(3)	シミュレーション2（パターン1+移動均衡）.....	9
(4)	各推計パターン・シミュレーションの比較.....	10
第3章	現状と課題.....	11
(1)	第1期計画の進捗評価（庁内各課）.....	11
第4章	施策の展開.....	19
(1)	第2期計画の施策体系.....	19
(2)	施策の推進.....	20
基本目標1	森と生きる（仕事づくり ものづくり ひとづくり）.....	20
基本目標2	森に遊ぶ（もてなし、ふれあい、感動づくり）.....	23
基本目標3	森で育む（子どもの笑顔ときなりライフ）.....	26
横断的基本目標1	多様な人材の活躍の場づくり.....	30
横断的基本目標2	新しい時代の流れを力にする.....	33

(1) 国の創生総合戦略及び本村地方創生総合戦略との関係

第2期下北山村地方創生総合戦略の策定においては、人口減少を抑制し、将来的にわたり持続可能な地域を実現していくため、国が掲げている「まち・ひと・しごと創生」政策5原則「自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視」に基づきながら、下北山村（以下、本村という。）における人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指し、取り組んでいく必要がある。

また、施策の推進にあたっては、住民（村外住民）、企業・事業者など、多様な主体者との連携（政策間連携、地域間連携）が求められる。

さらに、国は第2期総合戦略の取組を実施するにあたり、新たに次の視点に重点を置いて施策を推進することとしている。本村の取組においても、こうした国の動きを踏まえる必要がある。

<第2期計画の視点>

1.地方へのひと・資金の流れを強化する

- ・将来的な地方移住につながる「関係人口」の創出・拡大
- ・企業や個人による地方への寄附・投資等による地方への資金の流れの強化

2.新しい時代の流れを力にする

- ・Society5.0の実現に向けた技術の活用
- ・SDGsを原動力とした地方創生

3.人材を育て活かす

- ・地方創生の基盤をなす人材に焦点をあて、掘り起こしや育成、活躍を支援

4.民間と協働する

- ・地方公共団体に加え、NPO等の地域づくりを担う組織や企業と連携

5.誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ・女性、高齢者、障がい者、外国人等誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現

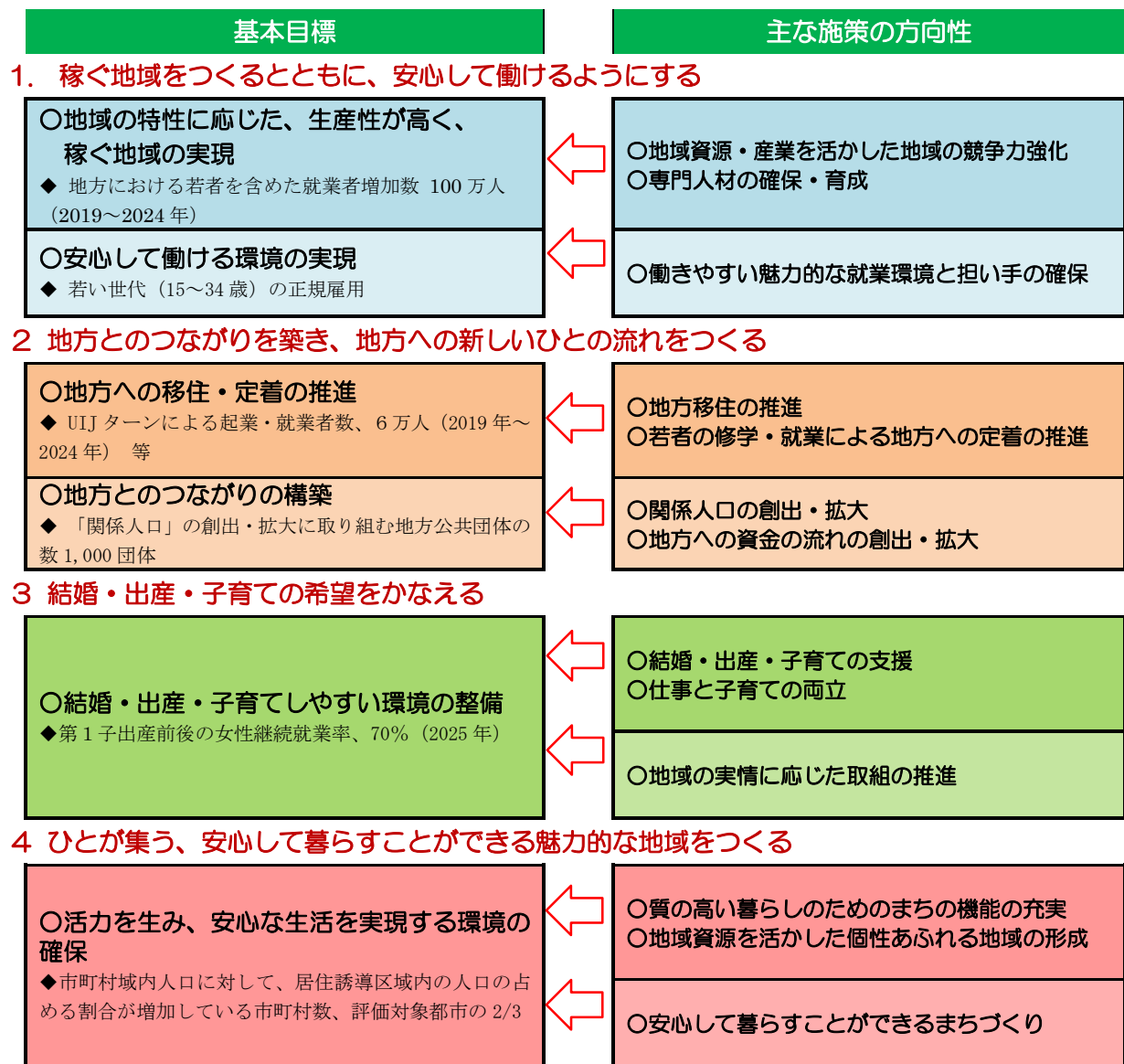
6.地域経営の視点で取り組む

- ・地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント

(2)「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

①自立性	・地方公共団体・民間団体・個人等につながるような施策に取り組む。
②将来性	・施策が一過性の対処療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。
③地域性	・地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。
④直接性	・施策の効果をより高めるために、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の効果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。
⑤結果重視	・施策の結果を重視するため、明確な PDCA メカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測などにより短期、中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

(3) 国の第2期「総合戦略」の施策体系



横断的な目標

多様な人材の活躍を推進する

- 多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
 - ◇ 地方再生法に基づき指定されている NPO 法人等の数 150 団体
- 誰もが活躍する地域社会の推進
 - ◇ 女性の就業率 82%

新しい時代の流れを力にする

- 地域における Society5.0 の推進
 - ◇ 未来技術を活用し地域課題を解決・改善した地方公共団体の数 600 団体・600 件
- 地方創生 SDGs の実現など持続可能なまちづくり
 - ◇ SDGs の達成に向けた取組を行っている都道府県及び地区市町村の割合 60%

(4) 目指すべき将来像

将来にわたって「活力ある地域社会」の実現
～人口減少を和らげる～

○結婚・出産・子育ての希望をかなえる

◇結婚、妊娠、子供・子育てに温かい社会の実現に向かっていると考える人の割合、50%

地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する

○人口減少に適応した地域をつくる ○「東京圏への一極集中」の是正

◆ 地方・東京圏の転出入均衡

(5) 地方創生と持続可能な開発目標 SDGs (※)

持続可能な開発目標（SDGs）（以下「SDGs」という。）は、先進国、発展途上国を問わず、経済・社会・環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組として推進するものであり、多様な目標を達成するための取組は、地域の諸問題の解決に貢献し、地方の持続可能な開発、すなわち地方創生の推進につながるものである。

SDGsは、17のゴール及び169のターゲットが設定されているが、それぞれのゴール・ターゲットは相互に関連して持続的な発展を目指しており、地方創生においても、基本目標及び施策が相互に関連する中で人口減少に歯止めをかけることとしており、地方創生の取組をSDGsの取組と位置付けることにより、様々なステークホルダーに対してそれぞれの目標・施策の相関性を明確にすることができる。本村においても、これらの観点を踏まえて第2期地方まち・ひと・しごと創生総合戦略を推進することで、SDGsのゴールを見据えて共通認識のもと、住民をはじめ、各種団体と連携を促進する中で、さらなる本村の持続的な発展に繋げていくものとする。(※) Sustainable Development Goals の略



(6) Society 5.0 (※) の実現

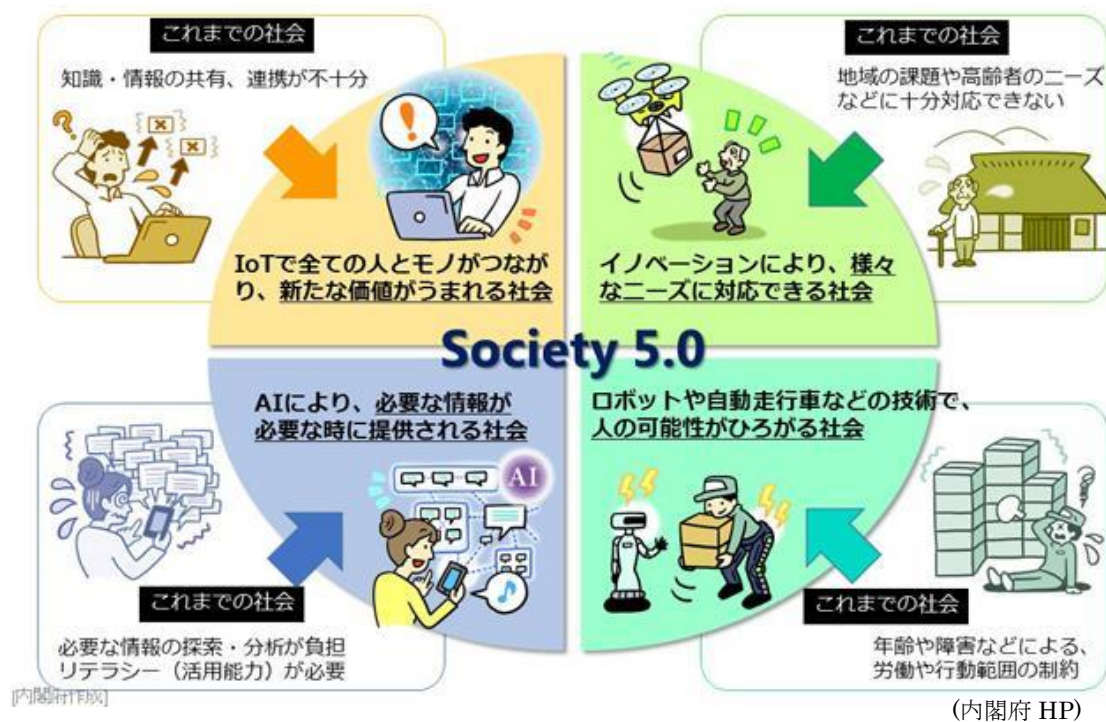
情報通信技術をはじめとする未来技術は、利便性や生産性の向上を通じて地域を豊かにするとともに、その魅力を高め、さらには人の流れをつくる好循環を生み出すものとして、国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、地方創生に積極的に活用することとされている。こうした国の方向性を踏まえ、本村においても、Society5.0の実現に向けて、AI及びRPAなど、未来に向けた先進的なICT（情報通信技術）をすべての施策、あらゆる分野において共通して必要となる手段として積極的に活用を図り、第2期地方創生総合戦略を推進していく。

※Society5.0とは

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。Society 5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、情報社会（Society 4.0）における課題や困難を克服する。また、AIにより、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会となる。

AI（artificial intelligence）とは、人間が持っている、認識や推論などの能力をコンピューターでも可能にするための技術の総称。人工知能とも呼ぶ。

RPA（Robotic Process Automation）とはロボットによる業務自動化の取組を表す言葉でデジタルレイバー（Digital Labor）や仮想的労働者とも呼ばれている。ホワイトカラーの業務を、パソコンやサーバ上にあるソフトウェア型のロボットが代行・業務自動化を実現するRPAをRPAツールとも呼び狭義のRPAで使われる。



(7) 取組体制とPDCAサイクル（計画の検証）

①取組と検証

第2期総合戦略に係る取組の推進にあたっては、毎年度、施策の進捗状況や効果を取りまとめ、外部有識者等で構成する「下北山村総合戦略検証会議」による効果検証を行い、必要に応じて総合戦略の見直しを行う。

②地域間の連携推進

国、県の地域連携施策を活用するとともに、吉野郡等近隣自治体との連携を積極的に進めながら第2期総合戦略に係る取組を推進する。

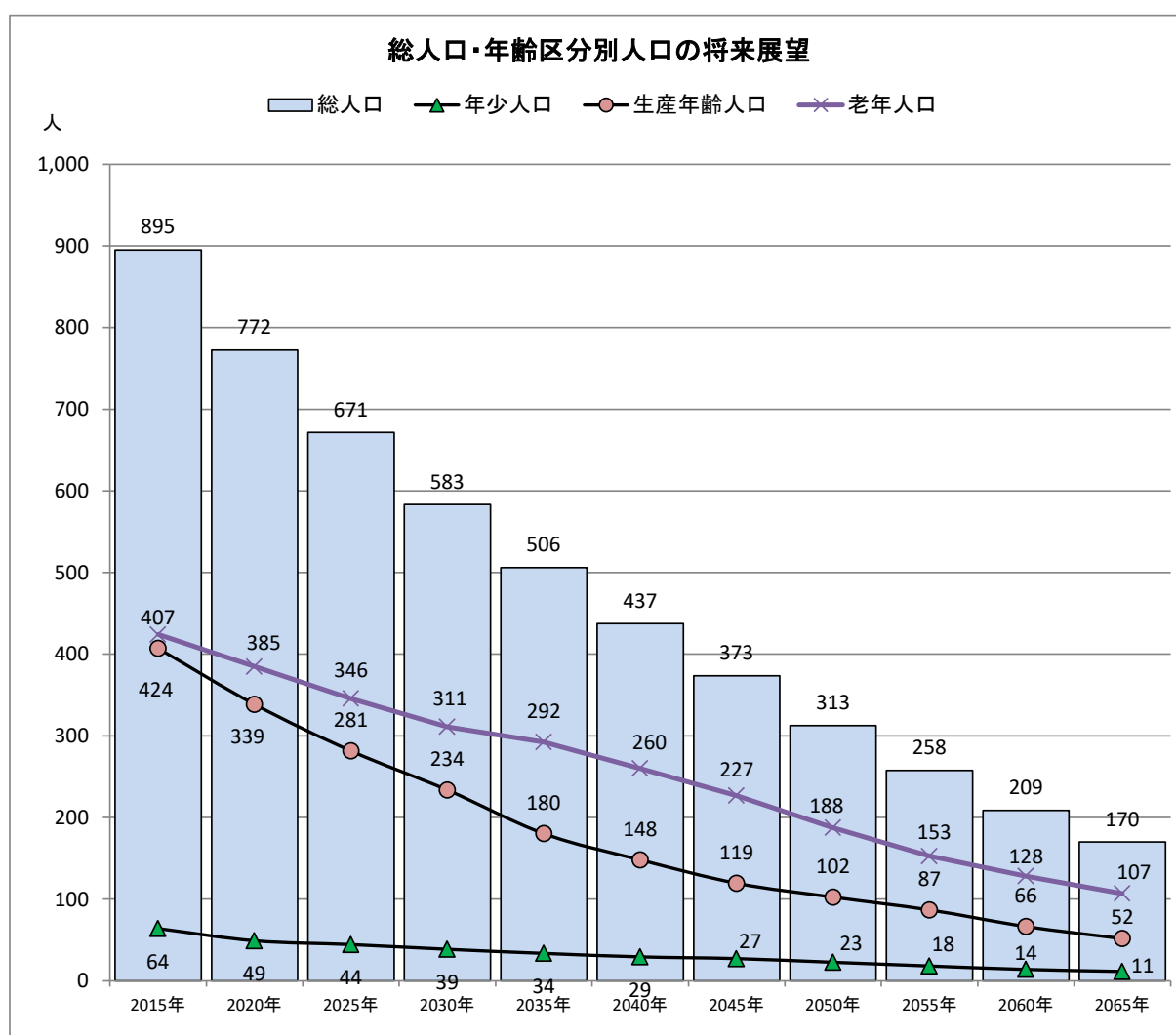
第2章

人口推計

(1) 人口推計：パターン1（国立社会保障・人口問題研究所の推計に準じた推計）

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計では、平成27年度国勢調査を基準人口とするコーホート要因法（基準年の男女・年齢別人口に人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法）が用いられている。

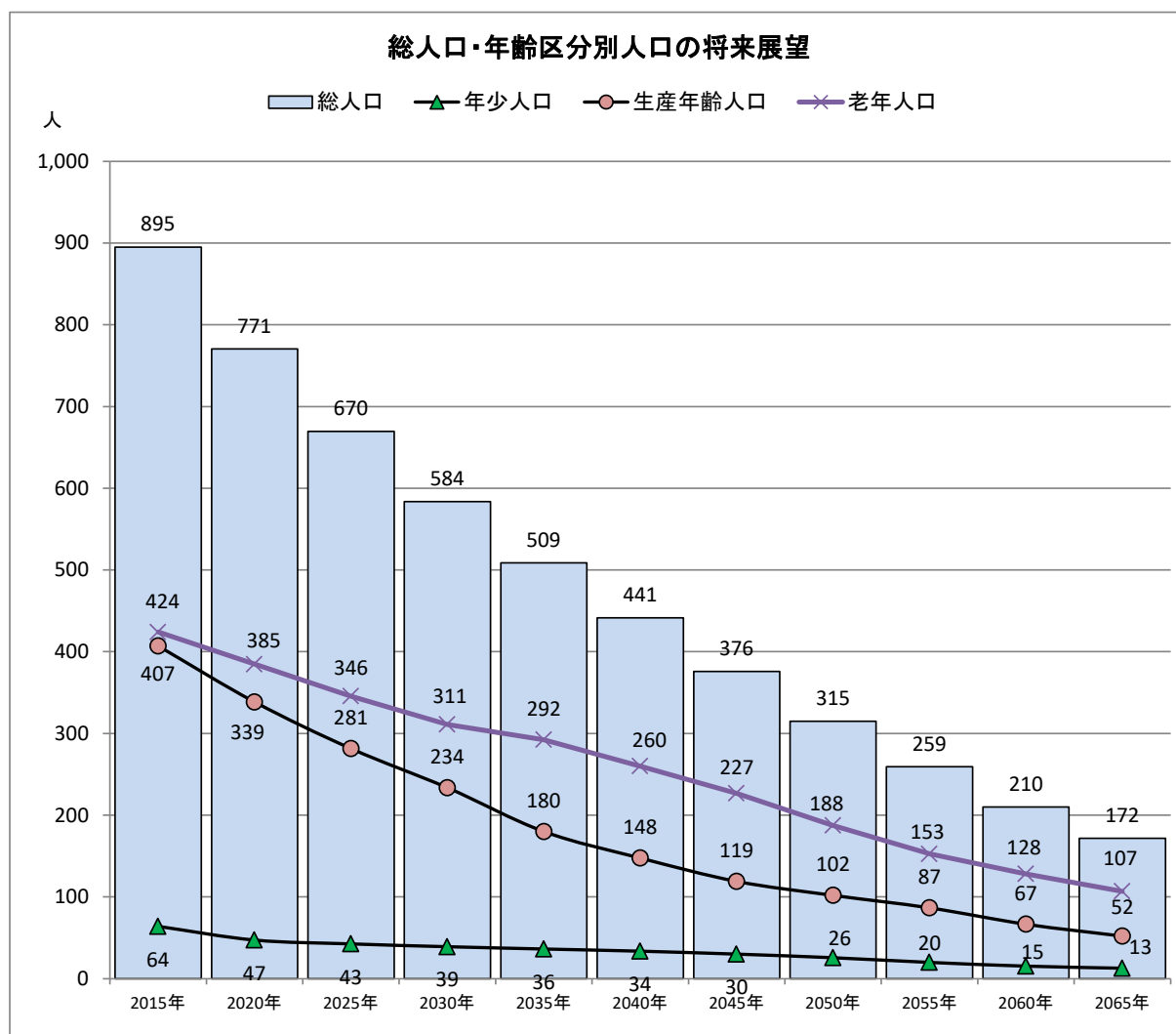
社人研推計による人口の推移をみると、2060年には総人口209人、高齢化率61.2%となっている。また、2065年には170人まで減少すると推計される。



(2) シミュレーション 1 (パターン 1+出生率上昇)

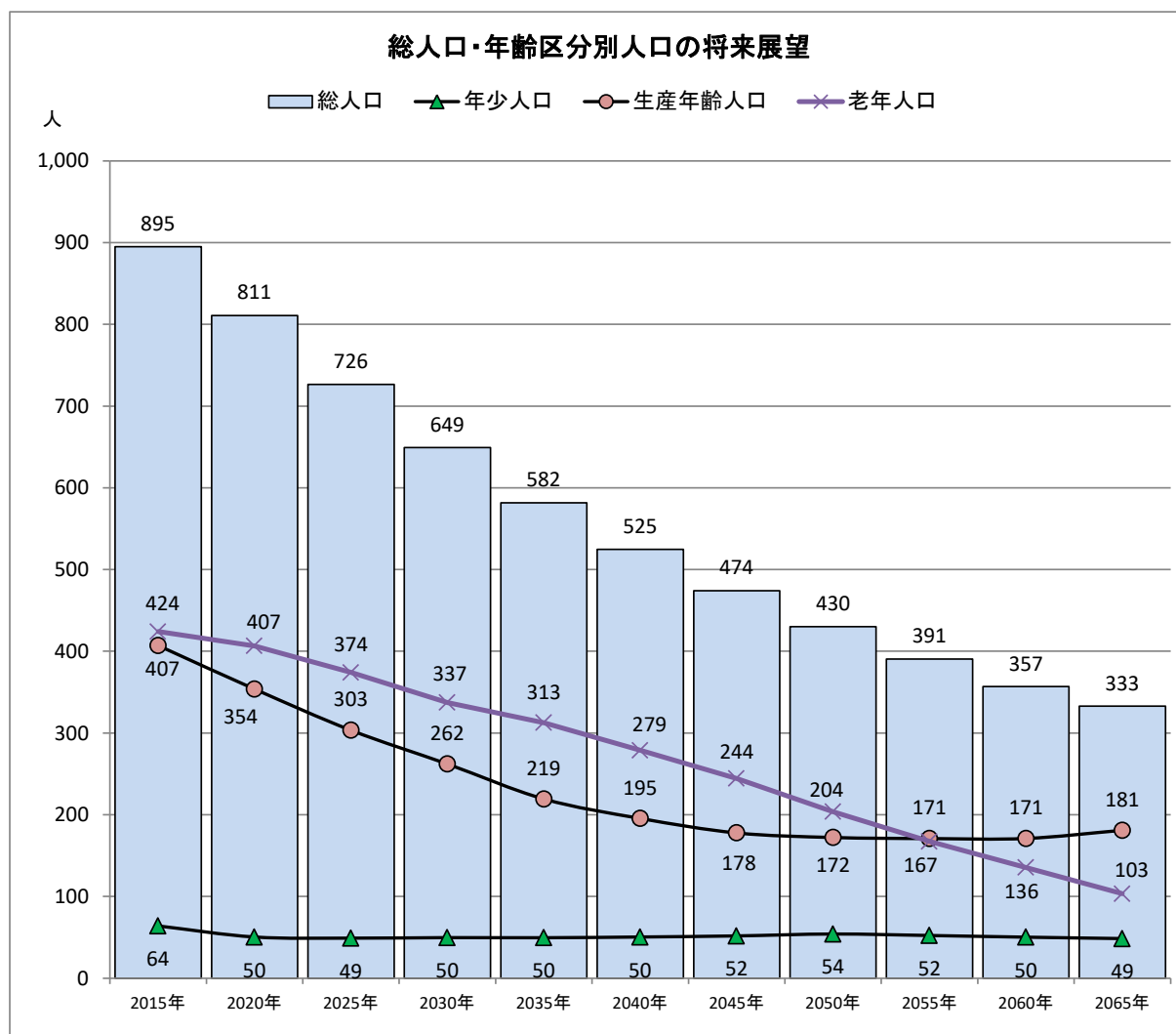
シミュレーション1では、社人研推計に準拠するパターン1に、2030年までに合計特殊出生率が人口置換水準である2.1まで上昇(2035年以降は2.1を維持)するという仮定を加え推計している。

その結果、2065年における総人口はシミュレーション1で172人と推計される。



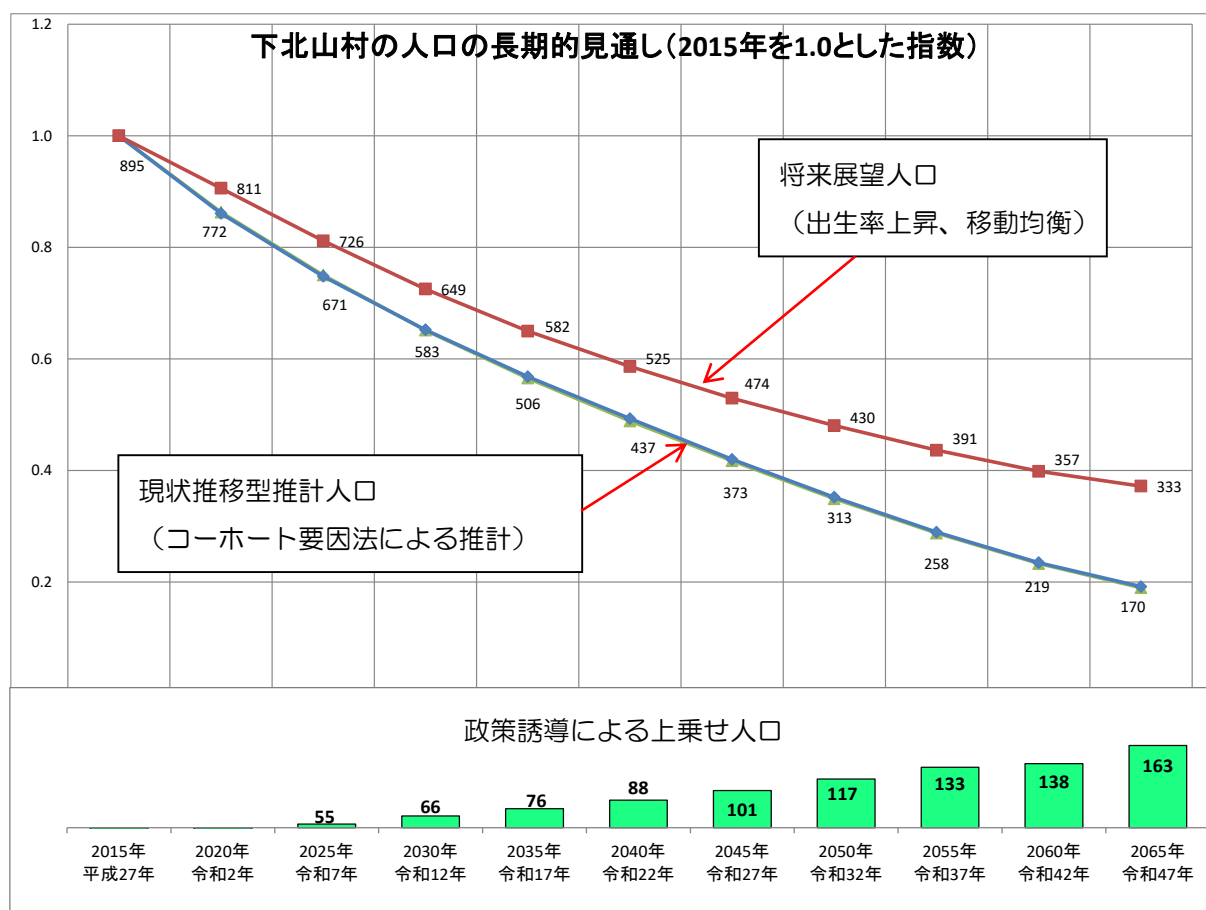
(3) シミュレーション 2 (パターン 1+移動均衡)

パターン 1 に移動均衡（転入、転出の差が 0）を加えると、2065 年における総人口はシミュレーション 2 で 333 人と上昇すると推計される。



(4) 各推計パターン・シミュレーションの比較

各推計パターン・シミュレーションを2015年を1.0とする指標で比較すると、以下のグラフの通りとなる。それぞれ「パターン 1」から、出生率を上昇させる「シミュレーション 1」（実数にして2人）、出生率の上昇に加え、移動を均衡させる「シミュレーション 2」では（実数にして163人）の上乗せとなる。



第3章

現状と課題

(1) 第1期計画の進捗評価(庁内各課)

1. 森と生きる（仕事づくり、ものづくり、ひとづくり）

基本方向1 新たな林業経営の調査研究	評価
施策① 森林環境の適切な保全と森林を活用した地域づくり 【現況と課題】 ・間伐を担う森林組合員数が少ない中、山主の山離れ、無関心がますます進んでいる。 ・100 haを目標とするが、これだけでは6,000haの人工林の整備は難しい。 【基本方向】 ・山林の多面的機能を勘案し、優先順位をつけた山林の洗い出しを行う必要がある。 ・山林所有者との話し合いを持つ取組、または仕組みが必要 ・地域の林業の担い手の育成 ・村と森林組合が協働した労務支援（技術講習や安全講習・独立会計支援） ・住環境（住宅支援）の整備の補助など関係各課と連動した支援	継続
施策② 木材加工企業に誘致と起業支援 【現況と課題】 ・当初の出荷量の基準は大面積皆伐施業時の出材料が基準になっているため、現実の森林蓄積量および作業量から適正な数量の設定が必要である。 【基本方向】 ・木材加工業については、村で安定的な仕事量を確保し、企業自身の営業努力を支援するなど含めて雇用数の増加につなげていく。	事業完了
基本方向2 遊休農地の活用と就農者の創出	評価
施策① 新規就農者の創出 【現況と課題】 ・事業実施していない。 ・就業者を増やす立地が難しい。 ・特に伝統野菜の「下北春まな」の生産者が減少している。 【基本方向】 ・農業だけでの自立は難しい状況 ・林業等との組み合わせによる就業者の増加を検討	見直し改善

・ 自営的な小さな農業を行う人材の支援を行う。	
-------------------------	--

基本方向 3 きなりブランドの研究開発	評価
施策① 特産品の安定供給体制の確立とブランド化 【現況と課題】 ・ 「下北春まな」を生産する担い手の高齢化 ・ 特に伝統野菜の「下北春まな」の生産者が減少している。 【基本方向】 ・ 担い手の育成 ・ 春まな生産の啓発などが必要	進行中
施策② 獣害対策とジビエ料理への活用 【現況と課題】 ・ 231 頭（捕獲）（H30 年度） ・ 捕獲数は増えてきている獣種もあるが個体数の増加に対応できていない。 ・ 特にサルの個体数増加が顕著 【基本方向】 ・ 村・農業者・猟友会と連携した取組が必要。	見直し改善
施策③ きなりの郷ブランド認定制度の発足 【現況と課題】 ・ ブルーベリージャム・ジビエコロッケ・木製アクセサリーなどを開発 【基本方向】 ・ 引き続き、川魚を始め、商品種類の拡大とブランド化に取り組む。	継続

基本方向 4 起業・就業支援	評価
施策① 企業誘致の推進 【現況と課題】 ・ 誘致事業者 1 件 ・ BIYORI の整備 ・ むらコトプランを活用して誘致への検証実験を実施。 ・ 奥大和プラネットオフィス構想への加盟。 【基本方向】 ・ 奥大和プラネットオフィス構想への加盟のメリットを活かす。 ・ 奈良県との連携	継続

基本方向 5 地域内消費の喚起	評価
施策① ②既存事業者の事業の活性化に伴う消費の喚起	継続
【現況と課題】 ・ 309,000 千円（スポーツ公園・いこいの郷等）	
【基本方向】 ・ 引続き地域内消費の喚起を図り、地元経済の活性化を図る。	

2. 森に遊ぶ（もてなし、ふれあい、感動づくり）

基本方向 1 交流人口の拡大	評価
施策① 下北山スポーツ公園施設の再整備（利用可能人数の拡大）	継続
【現況と課題】 ・下北山スポーツ公園地区まちづくり検討委員会設置段階	
【基本方向】 ・今後も、地域おこし協力隊制度や民間活力も入れながら事業が持続可能な取組になるよう工夫したい。 ・キャンプ場・公園施設・宿泊・温泉施設の利用者・イベント参加者・登山客の人数を毎年度5%増を目指す。（釣り客除く）	
施策② 伝説や資源を活かした新しいストーリーづくりを通じたオフシーズンの解消	見直し改善
【現況と課題】 ・担い手として地域おこし協力隊員制度を活用した。 ・吉野地域日本遺産活性化協議会加入により広域的な取組は行った。	
【基本方向】 ・オリジナルキャラクターを活用し、宝探しなどのイベントを実施して、今後も新しいストーリーづくりを目指す。	
施策③ 観光ルートの確立と普及とオフシーズンの解消	継続
【現況と課題】 ・むらコトアカデミーによる外部の意見や、キャンプ場アンケートなどによる課題については、把握できた。 ・プレイヤーが不在であることから、継続した取組にならなかった。	
【基本方向】 ・本村への、ひと・資金の流れを強化するために、各産業、観光、スポーツ交流を進め、関係人口の創出・拡大を図るとともに地域おこし協力隊募集活動を継続する。	

基本方向 2 きめ細かなもてなし体制	評価
施策① おもてなしスタッフの育成	継続
【現況と課題】 ・おもてなしスタッフ養成講座は年 1 回実施している。 ・拠点整備の運営課題等について、ボランティア団体と連携して検証を行っている。	
【基本方向】 ・道の駅整備と合わせて、拠点整備計画を検討する。また、インバウンド対応の看板、冊子などの整備	
施策② 村外への情報発信の強化	見直し改善
【現況と課題】 ・村の Facebook、Instagram、ツイッター等も活用 ・特産品冊子及びプロモーション動画の制作	
【基本方向】 ・民間企業との連携 ・地域住民と協働による情報発信	
施策③ 下北山村ファンの会員組織化	見直し改善
【現況と課題】 ・検討したが実施に至らなかった。 ・令和元年より見直したふるさと納税にあわせて今後検討	
【基本方向】 ・ふるさと納税寄付者を取り込んだ会員組織の創設を図る。	
施策④ 下北山村の観光資源（山・川・ダム）を活用した教室やイベント、ツアーなどの実施支援	見直し改善
【現況と課題】 ・検討したが実施に至らなかった。	
【基本方向】 ・池原ダム湖を活用したイベントの開催 ・B I Y O R I でイベントの開催 ・地域おこし協力隊員や移住者等、地域のプレイヤーと連携して、下北山村らしさが伝わるイベントの開催を図る。	

基本方向 3 新しい観光資源をつくる	評価
施策① 住民の自主的な花いっぱい運動の促進	継続
【現況と課題】 ・事業は継続されているが住民参加が減少した。	
【基本方向】 ・啓発を行い、引き続き運動協力を地区単位で求めていく。 ・鳥獣被害防止対策の推進（先進事例研究及び実践） ・猟友会等との連携による駆除	
施策② 風致景観整備事業の推進	継続
【現況と課題】 ・景観の阻害や日影が多くなっている。	
【基本方向】 ・支障木伐採については、景観だけでなく、倒木による災害防止や獣害対策にも繋がるため継続していきたい。	
施策③ 空き家を活用したギャラリーの整備	見直し改善
【現況と課題】 ・関係案内所、BIYORI でモデル的に実施	
【基本方向】 ・空き家の活用と住宅整備 ・道の駅と連動して拠点整備を進めると共に、観光資源の情報発信と展示、販売を進める。	

3. 森で育む（子どもの笑顔ときなりライフ）

基本方向 1 定住・転入の促進	評価
施策① 定住促進窓口の設置と仕組みづくり 【現況と課題】 ・ワンストップ窓口の設置、移住促進施設の整備 【基本方向】 ・令和元年度に完成する移住促進施設の活用	継続
施策② 若い世代及び家族世帯に対する支援 【現況と課題】 ・家賃補助、新築や中古物件取得時の改修などに係る補助金創設 【基本方向】 ・空き家活用の促進 ・貸し手と借り手のマッチングの仕組みづくり	継続

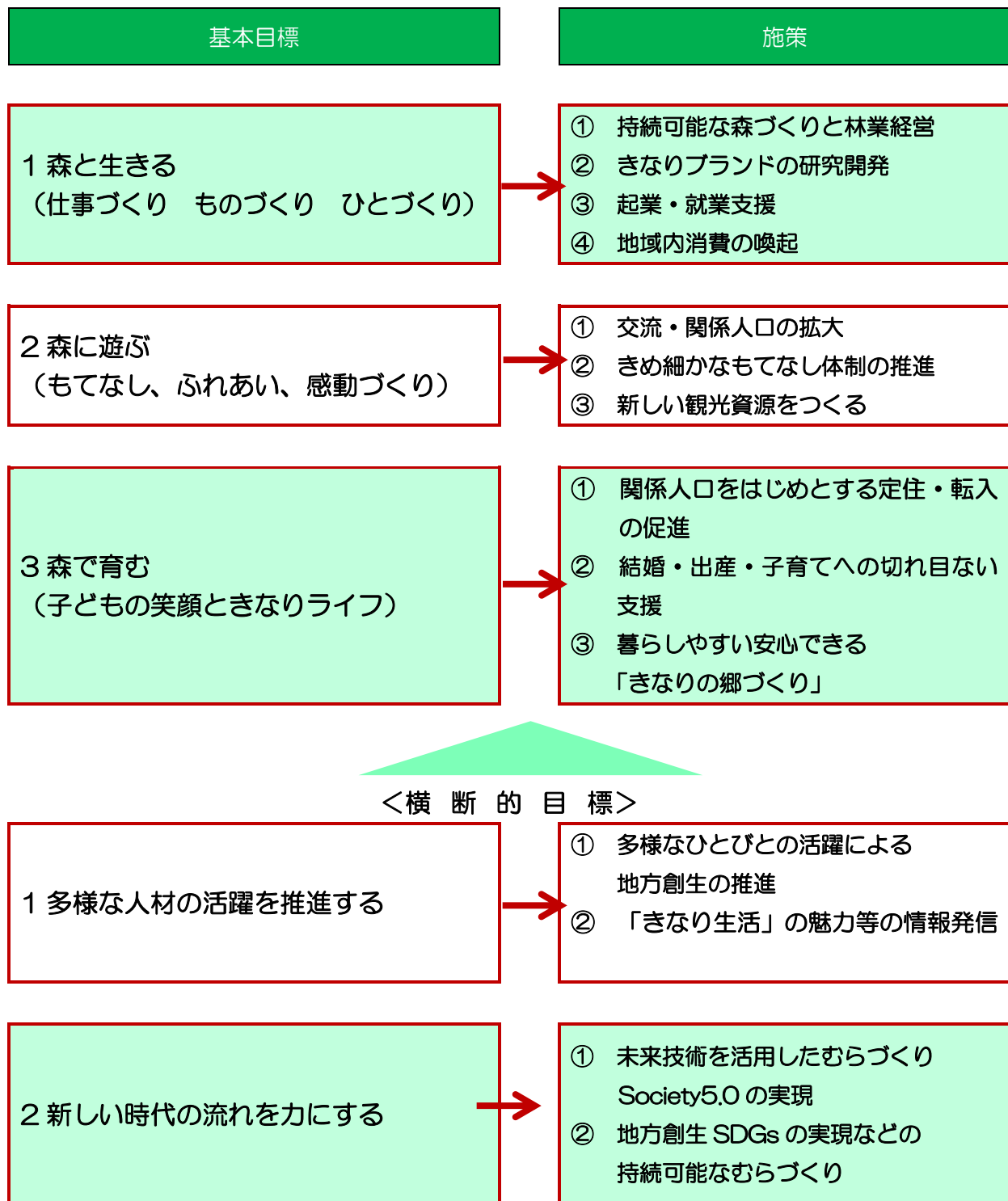
基本方向 2 結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援	評価
施策① 結婚・出産・子育てを地域で支えるむらづくり 【現況と課題】 ・出産支援・子育て支援・婚活支援は実施しているが、成果が見られない。 【基本方向】 ・結婚支援制度の周知、出産祝い金や延長保育などを継続していく。	継続
施策② 下北山村ならではの教育支援 【現況と課題】 ・ALT 採用により計画に上げた事業を実施 【基本方向】 ・人材の配置は完了したが更に教室内容の充実を図って行く。	事業完了

基本方向 3 暮らしやすい地域づくり	評価
施策① 乗合事業によるコミュニティバスの運営支援	事業完了
【現況と課題】 ・ R169 ゆうゆうバス利用者月平均利用者 50 人(前年度比△49 人)	
【基本方向】 ・ 村民の利用人数が増えることは期待できないが、行楽シーズンの観光客の利用増について検討が必要	
施策② 集落環境整備事業	見直し改善
【現況と課題】 ・ 行政ですべての集落環境の維持を行うには財政的にも難しい ・ 集落で特に育ちすぎて危険な木や日陰になっているような木の管理ができる仕組みづくり	
【基本方向】 ・ 人材の育成を行う。 ・ 集落の近くは特殊伐採技術の検討が必要	
施策③ 犯罪のない安心した生活維持	継続
【現況と課題】 ・ 車上・部品ねらい(3 件)・その他(2 件) ・ R1.9 現在(2 件)・H30(5 件)・H29(5 件)・H28(9 件)・H27(7 件)主に車上部品ねらい	
【基本方向】 ・ 防犯対策の強化	
施策④ 福祉医療施設整備に向けての調査・研究	見直し改善
【現況と課題】 ・ 調査・研究は未実施 ・ 診療所などの医療施設がバリアフリー化されていない。	
【基本方向】 ・ 「地域福祉計画」に基づき、必要なハード・ソフト整備を行う。	
施策⑤ 高齢者の生活支援サービス等の充実（配食サービス等）	継続
【現況と課題】 ・ 老人クラブ活動を中心に安心して生活できる支援を継続しているが、食事や栄養管理の面で心配な部分もある。	
【基本方向】 ・ 民間と行政との連携手法による、きめ細かいサービスを提供する。 ・ 食材の配達（宅配）業者を支援するシステムや、配達することによる人の繋がりがりや見守りといった福祉的サービスを構築していく。	

第4章

施策の展開

(1) 第2期計画の施策体系



(2) 施策の推進

基本目標 1 森と生きる (仕事づくり ものづくり ひとづくり)

多くの方が下北山村を魅力的と感じるのは、自然に恵まれ、住民気質が穏やかであることが評価されている点がある。またその一方で、買い物の不便さや交通インフラについての利便性の悪さが指摘されている。

下北山村は村土の 90%を森林が占めている。村ではこのかけがえのない豊富な森林によりもたらされる安らぎや美しい空気、透き通った川、ダム湖など、さまざまな恵みを活かし自然と共に生きる暮らしを実践してきた。このような村特有の自然をさらに活かし、魅力ある特産品の開発や、多様な分野における雇用を創出する。

KGI (基本目標指標)	指標名	現状値	目標値
	雇用創出数（製造業）	25	50
	新規事業者数	1	3

・RESAS（産業特性）2017

施策① 持続可能な森づくりと林業経営

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
① 森林環境の適切な保全と森林を活用した地域づくりの検討	山林の多面的機能を勘案し優先順位をつけた山林の整備を行うとともに、森林の有効活用を検討する。	・産業建設課 ・地域林政アドバイザー	・山林所有者	・事業体 ・森林組合 ・自伐林家	
② 担い手の育成	・研修等の開催 ・林業の担い手の育成のため労務支援や住宅支援などをする。 ・林業の担い手を支えるプランナー等の育成により山林の集約化を推進する。	・産業建設課 ・地域林政アドバイザー			○
③ 木材利活用検討	・木材利用の検討 ・公共施設の木質化計画 ・エネルギー利用の検討（山～製材所～利用）のモデル作成	・産業建設課 ・総務課	・自伐林家	・事業体 ・森林組合 ・製材所 ・むらづくりセンター	○

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	研修会等の参加人数	10 人／年	20 人／年
	山林集約化	0 か所	10 か所
	公共施設の木質化	1 施設	5 施設

・RESAS（林業）2017

施策② きなりブランドの研究開発

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①特産品の安定供給体制の確立とブランド化	「下北春まな」などの生産者への支援を行うとともに、担い手の高齢化に対応するため、次世代の担い手の育成の啓発などを進める。	・産業建設課 ・地域創生推進室	・特産物加工組合	・サポートきなり	
②「きなりブランド」商品の開発支援	下北山村の特産品等、新たな商品開発への支援を図る。	・地域創生推進室	・特産物加工組合		

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	春まな、南朝みそ販売額	1,068 千円 (平成 30 年度)	3,000 千円 (令和 6 年度)
	分野別ブランド認定数	4 (平成 30 年度)	8 (令和 6 年度)



【goal8 雇用創出】
【goal9.産業イノベーション】

【goal15 陸上資源】

施策③起業・就業支援

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
① 企業誘致の推進	・コワーキングスペース BIYORI を拠点としたリモートワーク・テレワークの推進とサテライトオフィスの誘致活動 ・村内遊休施設や遊休地の活用を促進し企業の誘致を図る。	・地域創生推進室			

KPI	指標	現状値	目標値
(重要業績評価指標)	誘致企業数	0	3



【goal8 雇用創出】

施策④地域内消費の喚起

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①消費喚起による地域経済の活性化	下北山村で一定の消費活動を行った場合に特典が受けられる仕組みの創出	・地域創生推進室		・商工会	

KPI	指標	現状値	目標値
(重要業績評価指標)	サービス業売上額	217 百万円 (平成 28 年)	300 百万円

・RESAS（小売業）2016



【goal9.産業イノベーション】

基本目標 2

森に遊ぶ（もてなし、ふれあい、感動づくり）

世界遺産に指定されている大峯奥駈道や前鬼をはじめとした下北山村の豊かな自然資源と人的資源を最大限に活かし、おもてなし力の向上と PR の強化を進めることによって、交流人口の増加を目指す。

また、古くからの伝説や下北山村にしかない恵まれた自然環境を題材に、新しい伝説となるきなりの郷の物語を創造し、また、それに関連したふるさと納税返礼品を設ける等をして、下北山村ファン（新規関係人口）の獲得を目指す。

	指標名	現状値	目標値
KGI (基本目標指標)	交流人口（観光入込数）	154,132 人 (平成 30 年度)	170,000 人
	観光消費額（一人当たり）	982 円 (平成 30 年度)	1,100 円

施策① 交流・関係人口の拡大

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①スポーツ公園施設の再整備（利用可能人数の拡大）	自然に配慮したグラウンドの再整備と宿泊施設の拡充を図る。また、キャンプ場施設のリニューアルを図り、自然との共生の中で楽しめる空間づくりを進める。	・産業建設課 ・地域創生推進室 ・奈良県		・むらづくりセンター	
②下北山村固有の資源を活かした新しいストーリーづくり	池原ダム湖・世界遺産・日本遺産・ユネスコエコパークなど下北山村固有の財産やスポーツ公園等を活用したコンテンツづくり	・地域創生推進室 ・教育委員会			
③伝統文化や歴史を通じた下北山村らしさの創出	伝統文化の保存・活用を図る。また、村の自然や歴史資源の新たな魅力の発掘を図ると共に情報発信やイベント等の実施も行う。同時に、広域連携による観光ルートの確立と普及を推進する。	・教育委員会 ・地域創生推進室			
④スポーツ公園の魅力を高める	スポーツ公園及び周辺エリアにおいて、親水機能や緑化等、自然との共生を目指した環境整備を進める。	・産業建設課 ・地域創生推進室		・むらづくりセンター	○

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	スポーツ公園利用者数	122,941 人 (平成 30 年度)	145,000 人



【goal11 持続可能なむら】

施策② きめ細かなもてなし体制の推進

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①おもてなし対応の施設整備と人材育成	道の駅等の観光案内拠点の整備を進めると共に人材の確保・育成を図る。また、インバウンド対応の施設整備を図る。	・地域創生推進室	・住民団体	・むらづくりセンター	
②下北山村の地域資源（ヒト・モノ・コト）を連携・活用したイベント等の実施	各種地域づくり団体への支援と地域おこし協力員や移住者または関係人口と連携した取組の推進	・地域創生推進室	・住民団体	・むらづくりセンター	

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	ふるさと納税者数	124人	184人
	地域づくり団体数	4団体	6団体



【goal9.産業イノベーション】

【goal11 持続可能なむら】

【goal17 実施手段パートナーシップ】

施策③ 新しい観光資源をつくる

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①住民の自主的な花いっぱい運動の促進	住民による自主的な花木の植栽運動の支援	・教育委員会	・地域住民		
②風致景観整備事業の推進	観光拠点地域の景観造成	・産業建設課 ・地域創生推進室			
③天体観測の場づくり	美しい夜空を活用した自然プラネタリウム（仮称・ぎなりステラパーク）の整備を検討する。	・産業建設課 ・地域創生推進室	・地域住民		○

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	植栽運動参加者数	8人	15人
	景観整備実施か所数	0	1



【goal15 陸上資源】

基本目標 3

森で育む（子どもの笑顔ときなりライフ）

美しい自然と人情味豊かな村民との関係の中に営まれる、心安らぐ生活環境を強みに、元気なシニア世代や若い世代の定住促進や移住者との交流を通じて、きなりの郷のひとと自然が織りなす子育て、教育環境づくりを更に進める。

また、あわせて地域交通の整備、地域防災力の向上、いつまでも健康長寿の高齢者への支援の充実など、いつまでも住みたい、住んでみたいきなりの郷づくりを更に進める。

KGI (基本目標指標)	指標名	現状値	目標値
	社会増減（resas2018年 人口増減・転入数・転出数）	-12	0
	合計特殊出生率	0.75	1.25

・平成27～30年度の出生数 17/16～49歳女性人口 451人（独自算出）

施策① 関係人口をはじめとする定住・転入の促進

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①お試し移住体験施設の活用を通じた地域連携による取組の推進	移住希望者や関係人口の受け入れ促進のためのお試し移住促進施設の整備及び活用促進	・地域創生推進室	・地域住民		
②移住の受け入れ推進（空き家の利活用等）	移住者の住居候補となる空き家の利活用を促進するため、村内の空き家の実態調査及び対策計画の策定を行い、同時に空き家バンク制度の周知を強化・拡大することにより、空き家登録件数を増やす。	・地域創生推進室	・地域住民	・空き家バンク管理事業者	
③移住の受け入れ推進（移住相談体制の強化）	移住相談ワンストップ窓口の機能を強化し、地域住民を巻き込んだ受け皿づくりを行う。また、移住希望者の個々の実情に応じた柔軟な対応を行う。	・地域創生推進室	・地域住民		○

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	移住世帯数	17世帯	22世帯
	移住、定住問い合わせ件数	10件/年	25件/年



【goal3:保健】

【goal11 持続可能なむら】

施策② 結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①結婚・出産・子育てを地域で支える村づくり	・出産支援・子育て支援・婚活支援を進める。 ・結婚支援制度の周知、出産祝い金や延長保育などを継続していく。	・保健福祉課 ・地域創生推進室			
②下北山村ならではの教育支援	最先端のICT環境を整え、へき地ではあるが全国に先駆けICTを使った新しい教育方法を開発・実践していく。ALTや海外留学を通して国際理解や語学教育を推進する。	・教育委員会		・小中学校	

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	成婚数	0	累計 10 組
	ICT 教育実践学年数 (クラス数)	0クラス	9 クラス
	英語検定合格者率	33%	50%



【goal3:保健】

【goal4:教育】

【goal11 持続可能なむら】

施策③ 暮らしやすい安心できる「きなりの郷づくり」

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①乗合事業によるコミュニティバスの運営支援	コミュニティバス「R169 ゆうバス」等を活用し、村外への住民の移動手段の確保を図る。また、運賃等の一部助成については今後も啓発を行い、行楽シーズンの観光客の利用増について検討する。	・総務課 ・地域創生推進室		・南部地域公共交通活性化協議会	
②集落環境整備事業	集落周辺の日陰等の環境や倒木の危険がある大木や、空き地等に繁茂する草木の管理ができる仕組みづくり、また集落近くの伐採で必要となる特殊伐採技術者の育成を進める。	・産業建設課 ・住民課	・地域住民	・森林組合 ・事業体 ・自伐林家サポートきなり	
③犯罪のない安心した生活維持	防犯体制の強化のため、各集落単位での防犯の取組への支援を進めるとともに、村内主要か所において、防犯カメラの設置を進める。	・総務課	・地域住民組織	・警察	
④福祉医療施設整備に向けての調査・研究	診療所やいこいの郷の整備等に向けた調査・研究を進める。	・保健福祉課		・社会福祉協議会	
⑤高齢者が生涯下北山村で暮らせる村づくり	・食材の配達（宅配）業者を支援するシステムや、配達することによる人の繋がりや見守りといった福祉的サービスを構築する。 ・高齢者が希望する支援サービスについての意見聴取及び実践	・保健福祉課			
⑥獣害対策	特に、サルの個体数増加が顕著であり、産業建設課、猟友会、村内業者と取組を進める。	・産業建設課 ・奈良県	・地域住民	・猟友会	

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	広域バスの下北山村での乗降客	605 人／年	755 人／年
	宅配サービスの利用者	0 人／年	5 人／年
	有害獣（鹿、イノシシ、猿）捕獲頭数	231 頭	280 頭
	猟友会 会員数	11 人	15 人



【goal11 持続可能なむら】

【goal15 陸上資源】

横断的目標 1 多様な人材の活躍の場づくり

地域創生の推進のためには、農林業、商工業、子育て、教育、福祉分野等すべての分野での人材確保・定着への支援と、民間組織との連携が必要である。また、村内事業所等におけるいわゆる「働き方改革」への取組促進を図るとともに、女性、障がい者、高齢者、そして、村外の地域づくりに関心のある「関係人口」等の多様な人材が様々な場で活躍できる「きなりの郷」をめざす。

施策① 多様なひとびとの活躍による地方創生の推進

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①多様な住民の活躍できる環境づくり	農林業、商工業、子育て、教育、福祉分野等すべての分野での人材確保・定着への支援を進める。	・全課	・地域住民	・商工会	
②地域おこし協力隊の拡充	地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」の定住・定着を進める。	・地域創生推進室 ・産業建設課 ・総務課	・地域住民	・サポートきなり	
③民間組織との連携・協働の推進	住民生活支援、移住促進、観光拠点施設等、様々な分野で民間との協働を進める。	・地域創生推進室 ・産業建設課 ・総務課	・地域住民	・民間組織	
④下北山村ファン（関係人口含む）の創出	ふるさと納税者・企業版ふるさと納税の促進を通じて下北山村ファン層の創出を図る。（仮）下北山村応援会員制度の組織化	・総務課 ・地域創生推進室		・民間事業者	
⑤関係人口の創出・拡大	村外に在住する、村への関心層を掘り起こす取組を推進し、多様な地域づくり人材の確保を図る。	・地域創生推進室			○

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	障がい者の雇用率	21%	25%
	地域おこし協力隊の定住数	3人	10人
	民間との連携協定件数	5社	7社
	関係人口数	25人	50人



【goal11 持続可能なむら】

施策② 「きなり生活」の魅力等の情報発信

施策	具体的な施策	実施主体			新規
		行政	住民	事業者	
①「きなり生活」の魅力等の情報発信	見てみたい、行ってみたい、住んでみたい、「きなりの郷、下北山村」の魅力についてインターネットをはじめとする多様なメディアの活用など、情報発信の強化を進める。	・全課			○

KPI	指標	現状値	目標値
(重要業績評価指標)	下北山村公式 SNS のフォロー件数	1,816 件	2,200 件



【goal11 持続可能なむら】

横断的目標 2 新しい時代の流れを力にする

情報技術の進展は、予想をはるかに超えるスピードで暮らしに大きな変革をもたらしていく。まち・ひと・しごと創生のスピードを速めるため、利便性や効率性に大きく寄与することが期待される Society5.0 の実現に対応していく。

持続可能な開発目標 SDGs は先進国、発展途上国を問わず、経済・社会・環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組としている。その理念は地方創生につながるものである。

施策① 未来技術を活用したむらづくり

施策	施策の方向性	主な取組
①未来技術を活用したむらづくり	Society5.0 への対応	・ AI、IoTなどの未来技術の・研究



【goal9 産業インフライノベーション】

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	Society5.0 の実現 (Wi-Fi 設置箇所数)	5 箇所	13 箇所
	65 歳以上の就労者数 (AI の活用効果)	54 人	70 人

施策② 地方創生 SDGs の実現などの持続可能なむらづくり

施策	施策の方向性	主な取組
②持続可能なむらづくり	・SDGs の取組みの検討	・SDGs のむらづくりへの反映の研究

KPI (重要業績評価指標)	指標	現状値	目標値
	・SDGs 未来都村としての選定		未来都村 申請・認定



【goal8 経済成長と雇用】

【goal11 持続可能なまち】



き な り の 郷 下 北 山 村

第2期下北山村まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン及び総合戦略

令和2年3月 発行 下北山村

〒639-3803 奈良県吉野郡下北山村大字寺垣内 983

電話: 07468-6-0001 FAX: 07468-6-0026